

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170200517		
法人名	医療法人 厚生会		
事業所名	グループホーム白鳥の里		
所在地	鳥取県米子市彦名町1210-1		
自己評価作成日	令和5年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3170200517-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和5年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人ひとりが、入居者のあるがままを受け止め、共に支え合いながら支援を行っている。全てにおいて家庭的で温かな環境を目指し、入居者一人ひとりが、自分の役割・出番を發揮し、自ら意思決定できる働きかけをしている。何でも手作りをモットーに取り組んでおり、おやつ作り、行事なども工夫を凝らしながら、入居者が笑顔で楽しんで頂けるよう力を入れている。地域の行事に参加したり、小学校、幼稚園との交流を図るなど繋がりを持っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

粟島神社の参道近くに位置し、周囲を静かな住宅と畑に囲まれた医療法人が母体の平屋建て2ユニット18名のグループホームです。
 利用者の有する能力を可能な限り引き出す為、利用者一人ひとりに役割を持って頂き、見守りを中心としたケアを心掛けておられます。
 現在のご利用者はADLの自立度が高く、職員と会話を楽しみながらホーム内を歩行訓練を行ったり、作品作りに精を出したりと、アットホームな雰囲気の中のどかな時間が流れているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境で、自分の役割や出番が発揮できるような場を提供している。毎月のカンファレンスにて理念の唱和を行い意識付けをしている。	利用者の有する能力を可能な限り引き出し、自立への支援を行い、安心と尊厳のある生活を営めるようにしております。利用者には日々の歩行訓練や集団体操で機能維持と心身の負担軽減に努めていけるよう支援されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により、地域行事への参加や幼稚園や地区の小学生との交流が出来なかったが、今後の状況に応じて再開する予定。また、毎月、地区に通信を配布し日頃の生活の様子を伝えている。	コロナの影響もあり、毎月地区の家庭にホーム通信を配布し日頃のホームの様子をお知らせするに留まっています。地域との交流は中断しておりましたが、コロナ5類に伴い幼稚園、小学校や地域行事を再開される予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により、地域との交流が出来てはいるが、今年度より法人として公民館祭に参加し健康相談や地域の方の相談を再開した。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度よりコロナが5類となり、利用者やご家族にも会議に参加して頂き、活発な意見交換が出来ている。	年6回開催され、行政や民生委員、地域包括や家族等に参加頂き、利用者の様子、行事や事故・ヒヤリハット等の報告が行われ、委員の方に意見を頂き、ケアに反映しておられます。	事前にテーマを決め、テーマに関係する参加者の声掛けなど、多方面に議題があってもよいと思われます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の方に参加して頂き意見等頂いている。何かあれば都度相談をし協力を得ている。	行政への相談等は法人を通じて行われています。市の担当者には運営推進会議に参加頂き、相談や意見・指導等を頂いております。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束をしないように努めている。委員会主導にて、研修会の実施やスピーチロック廃止運動週間を設け、意識の向上を図っている。グループホーム独自の指針を作成し、職員へ周知徹底を図っている。	身体拘束廃止委員会による定期的な研修会が開催、ホーム独自の指針作成が行い、スピーチロック廃止運動週間を設ける等、身体拘束をしないケアの周知徹底に努めておられます。防犯上夜間の玄関の戸締りは行われます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にて学び、日頃のケアが虐待行為にならないように、また、見過ごすことの無いよう心掛けている。	虐待防止委員会による定期的な研修会が開催され、日々のケアの中で虐待にならないよう配慮しておられます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用されている方はおられず学ぶ機会が持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書に添って説明し理解を頂いている。また、ご家族や申込者との十分な面談を行い、理解して頂けるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、7月から利用者参加を再開し、家族参加は9月から再開した。面会や担当者会議等、日頃から頂いた意見や要望は職員間で協議しケアや運営に反映する様にしている。	利用者には日頃から意見、要望を確認し、家族には、運営推進会議、面会の際に直接伺う様にしておられます。また、介護計画見直しの際にも家族に意見・要望を確認しておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやチーム会や、必要に応じて面談を行い職員の意見や提案の聞き反映している。	ユニットごとの会議やケア会議で意見・提案を聞き、反映させるシステムができています。管理者は日常的に職員に声掛けしておられます。今年度法人代表者が変わりましたが、各職員と個人面談を行うなど、職員の意見や意向について聞く場が設けられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人代表が職員1人1人と個別面談を行い、現場状況や、個々の意見を聴いている。そこでの意見を人事異動に活かすケースもある。	法人代表者が職員一人ひとりと個人面談を行い、現場の意見を吸い上げておられ、人事異動に活かすケースもあります。人事考課制度も導入されています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修への参加を行っている。定期的なカンファレンスを利用し、不定期ではあるが勉強会を行っている。	職員個々の力量や経験、立場及び熟練度にあわせたスキルアップに必要な研修への参加は行われています。ホーム内での不定期の勉強会も行われています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度、10月から相互研修を再開し意見交換や他施設での取り組み等、学んだ事を報告し向上に繋げられるよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い情報収集に努めている。入居されてから密にコミュニケーションを図り、受け答えしやすい質問や話しやすい雰囲気づくりを行っている。また、表情や行動で察知し傍に行き傾聴を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、入居に至るまでの経緯や思いや要望等を聞いて理解するようにしている。面会や電話連絡の際、情報交換を行い日頃から関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に管理者、ケアマネ、看護師でご本人、家族と面談を行い必要なサービスを見極めている。グループホームで行える支援について十分説明を行い支援に結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者1人1人に合った役割、望まれる役割を提供し、力が発揮できるよう取り組んで頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が緩和され、家族と交流出来ている。定期的に手紙を書き、家族へ生活の様子を伝えたり、電話で伝えて情報共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の緩和により知人の方との交流も出来ている。	コロナ5類に伴い、面会緩和され部屋への立入りも出来るようになり、知人や友人、同級生との面会も実現しております。また、馴染みの場所へのドライブ等も実施されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が交流を図れるように場を提供し、トラブルや混乱が起きないように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてもグループホームでの生活情報を必要に応じて提供したり、面会に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時に話を聞いたり、日々の生活の中で会話等から、希望や意向を把握できるように努めている。	日々の生活の中で各場面ごとに、個々の意向や思いを確認したり、把握できるよう努めておられます。意向の表出しにくい方は、アセスメントや家族への確認して本人本位になるように検討してまいります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前ケアマネから情報提供を受け、本人、家族からも面談時に情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやワークシートを活用し、情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のチーム会で入居者の課題やケア内容を話し合い検討を行っている。それ以外にも状況に応じてその日の職員で話し合い検討している。	月1チーム会でモニタリングが行われています。6ヶ月毎の評価・見直し際には、計画作成担当者が素案を作成し、チーム会で確認検討・本案作成されます。必要に応じて適宜計画へ変更にも対応してまいります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施状況をカルテに記入し、職員同士の情報共有して。また、問題点などを把握し、チーム会等で介護計画の見直しを行っている。	日々の記録はきれいに整理されており、詳細な記録となっていました。チーム会でモニタリングや介護計画の評価・見直しにも活かしてまいります。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、同法人内のリハビリ職員に相談や評価をしてもらい支援を行っている。また、状態を把握する為にナースが病院に同行する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により、公民館祭やじげおこし、年二回の神社の祭り等、地域行事への参加やボランティアの受け入れが出来てはいるが状況に応じて再開する予定。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回定期的に併設のクリニックで受診している。家族の希望や必要に応じて他医院の受診や往診も対応している。また、日々の様子や症状等かかりつけ医に分かるよう伝達している。	利用者、家族の意向に従い、かかりつけ医を選んで頂いております。多くの利用者が同一法人の外来へ2週間おきに受診支援しております。従来からのかかりつけ医を受診の方は家族による受診が行われています。必要時には職員による受診対応も行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配属されており、日々、情報交換や状態説明を行えている。看護師と連携が図れており助言や指導も都度受けることができている。夜間はオンコール体制で待機している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、サマリーや電話などでの情報交換を行っている。退院時も地域連携室との連絡を細目にとっている。	入院時には速めに連携・情報の共有を行い、早期の退院ができるよう良い関係作りが行われています。退院時にも地域連携室と退院カンファレンス等を行い、退院後の注意点等を確認しております。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期ケアは行っていないが入居者の身体状況、認知面の低下により生活が難しくなってきた場合は、早めに今後の方向性を話し合う場を設けている。地域との連携はできていない。	当ホームは看取りや終末期ケアを行わない方針を入所時に本人や家族へ説明し同意を得ておられます。重度化してきた段階で、かかりつけ医、家族、ホーム職員で話し合いを持ち今後の方向性が決定されます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より緊急時の対応の指導を行っている。また、いつでも看護師に連絡が付き、助言をもらえるよう態勢を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練に参加し、避難誘導の仕方、居室の見回りを訓練した。訓練後には反省、考察を行い、	毎年定期的に避難訓練や法人全体の総合訓練を実施しております。法人全体の災害対応マニュアルが作成されています。原発事故発生時の避難者収容施設としても、法人がなっており、行政や地域とも協力体制が構築できています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	委員会主導にて接遇のテーマを決め、改善向上に努めている。個人を尊重した言葉かけや羞恥心に配慮しながら行っている。時には、方言や馴染みの言葉を取り入れながら対応している。	個々の尊厳やプライバシーに配慮した姿勢・態度での声掛けが行われています。職員は定期的研修や話し合いを行い、方言や馴染みの言葉を取り入れ、利点を生かした対応が行われていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が表現できるよう、関係づくりや雰囲気づくりに心掛け言葉かけを行っている。また、入居者の話に耳を傾け自己決定出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな日課はあるが、その時の体調や状況によって出来ない事もある。個々のペースや思いを大切に尊重しながら対応している。また、無理強いせず、希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類をご本人と一緒に準備したり、ご家族にも協力をしてもらいながら用意し、着て頂けるように支援している。希望があればメイク道具、保湿剤等好みの物を聞き用意したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響により同じテーブルで食事は出来ないが、野菜の皮むき、カット等の味噌汁作りや米研ぎ、食器類の洗いや片付け、日程を設け、カレーライス、お好み焼き、鍋、おやつ作り等一緒に調理も行っている。	食事の下ごしらえや準備、食後の片付けや洗い物、食器拭き等出来るお手伝いは職員と一緒にさせて頂かれています。行事食やリクエストメニューと一緒に作ったりと食事を楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立て、バランスの良い食事を提供している。食事や水分チェック表を活用し、摂取量が少ない方には好みの飲み物を提供している。体重増加傾向の方や疾患にあわせて、主食量の調整や食事形態の変更も必要に応じて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、必要な方には側につき、介助している。義歯洗浄も出来る所はしてもらい、夜は洗浄剤に入れ保管している。必要時には歯科受診をしてもらっている。	個々の能力の応じて、声掛け、仕上げ等、必要な支援を行なわれています。義歯洗浄を行ってもらい、夜に洗浄液に保管されています。状況によっては、歯科受診の提案・手配しておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の動作能力に応じた排泄援助を行う事で出来る限り自立に向けた支援を行っている。また、個々の排泄パターンを把握し、尿意の無い方は定時トイレ案内を行い排泄を促している。	排泄パターンを把握して、利用者個々の能力に応じた必要な支援が行われています。状況によっては、本人に意向に従い、同性介助や定時のトイレ案内など実施されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の乳製品を変えて、比較検討をしたり、みそ汁の具材にワカメ入れたり工夫している。排泄チェック表を用いて看護師と下剤の検討を行ったりしている。歩行運動や体操で毎日身体を動かしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本3日1回入浴して頂いているが、必要に応じて柔軟に対応している。入居者が望まない日は無理強いせず対応している。	週2回以上の入浴が実施されています。日中入浴が基本ですが、気が向かない時や体調等の変化が生じ落ち着かない時などは柔軟に対応して支援がなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や睡眠状況に合わせて必要に応じて休んでもらっている。午睡の時間を設け、休憩してもらっている。季節に応じた寝具や室温調整を行い安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者の病気や服薬内容を理解できるよう努めており、服薬変更時は看護師より伝達があり職員間で共有している。症状の変化があれば看護師に報告している。誤薬防止にも努めている。	看護師が、処方薬の仕分けやセットを行い、職員が服薬支援しておられます。薬の変更、用量の変更等があった場合には、症状の変化が見られる場合にはすぐに看護師に報告し医師の指示を仰いでおられます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて出来る事を役割として取り組んでもらっている。季節に合った行事を企画し、楽しんでもらっている。散歩やドライブで外出し気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩やドライブを行っている。家族と出掛けられる事もある。	好天気時には、近くの神社まで散歩したり、ドライブなどの支援が行われています。また、家族との外食やお出掛けも出来るよう支援しておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、全ての入居者は所持していない。欲しい物等あれば、職員が代行して買い物をを行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望あれば使用してもらっている。家族からの電話があった場合は、取り次いで話をして頂いている。手紙は、年賀状を入居者に作成してもらい家族へ出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは清潔に気をつけ、空気清浄機を設置している。廊下には季節を感じられる様な入居者の作品等で装飾をしている。	共有空間は、清潔に保たれ、程よい明るさで、日差しが差し込み、食後の利用者が廊下のベンチで日向ぼっこしながらうたた寝するぐらいの適温でもあった。BGMIにリアルタイムのニュースが適音量で流れていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置き、日光浴が出来るスペースや談話コーナーにソファ、椅子、テーブルを置き複数でも集まれるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物や持ち物設置したり、家族や知人との写真や自ら作成した作品を飾ったりし、居心地の良い居室作りを行っている。	居室は個々のお気に入りのものが置かれていたり、持ち込まれていました。成長がわかる孫・ひ孫の写真なども飾られていました。本人のADLに合わせた家具等も家族と相談・準備がなされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ等、分かりやすい様に表示している。個人的に案内板を作成し、出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。導線上に障害物を置かないよう安全面に配慮している。		